

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度技術情報第21号（キュウリ、トマトのウイルス病）について（送付）

キュウリ、トマトのウイルス病について下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和6年度技術情報第21号

施設栽培において、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病およびトマト黄化葉巻病の発生が多くなっています。被害の拡大を防ぐため、媒介虫であるタバココナジラミおよびミナミキイロアザミウマの防除を徹底してください。

- 1 対象病害虫 キュウリ退緑黄化病（病原ウイルス：CCYV）
キュウリ黄化えそ病（病原ウイルス：MYSV）
トマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）

- 2 対象作物 キュウリ、トマト

3 発生状況および情報の根拠

[キュウリ]

- (1) 11月中旬の調査において、キュウリ退緑黄化病の発生ほ場率は40%（平年4%）、キュウリ黄化えそ病の発生ほ場率は30%（平年4%）と平年より高かった（図1, 2）。
- (2) 両病害の発生ほ場率は、過去10年で最も高い（図3, 4）。
- (3) キュウリ退緑黄化病ウイルスはタバココナジラミによって、キュウリ黄化えそ病ウイルスはミナミキイロアザミウマによって媒介される。11月中旬の調査における両害虫の発生ほ場率は、平年と比べてコナジラミ類は50%（平年14%）と高く、アザミウマ類は10%（平年2%）とやや高かった（図5, 6）。

[トマト]

- (1) 11月中旬の調査において、トマト黄化葉巻病の発生ほ場率は21%（平年10%）と平年よりやや高く（図7）、過去10年で3番目に高かった（データ省略）。
- (2) トマト黄化葉巻病ウイルスはタバココナジラミによって媒介される。11月中旬の調査におけるコナジラミ類の発生ほ場率は36%（平年11%）と平年より高かった（図8）。

4 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場の見回りを行い、発病株の早期発見に努める。発病株を認めたら、早急に抜き取り処分する。
- (2) 媒介虫の早期発見のため、施設の開口部付近に粘着トラップを設置する。タバココナジラミには黄色粘着トラップが、ミナミキイロアザミウマには青色粘着トラップが有効である。なお、発生を認めたら速やかに防除する。
- (3) タバココナジラミは葉裏、ミナミキイロアザミウマは花や新芽の中など、農薬のかかりにくい場所に生息する。農薬による防除を行う際は、丁寧に散布する。
- (4) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (5) ハウス内・周囲の雑草は媒介虫の繁殖源になるので除草する。

5 参考データ

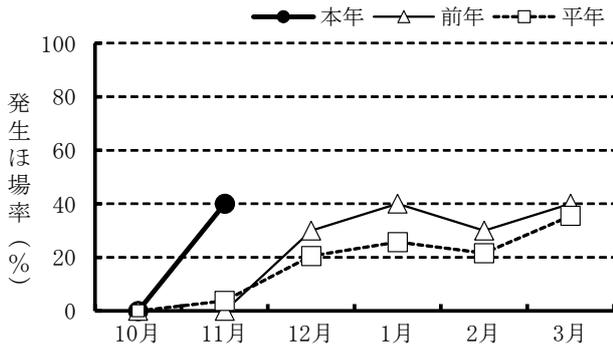


図1 退緑黄化病の発生ほ場率(キュウリ)

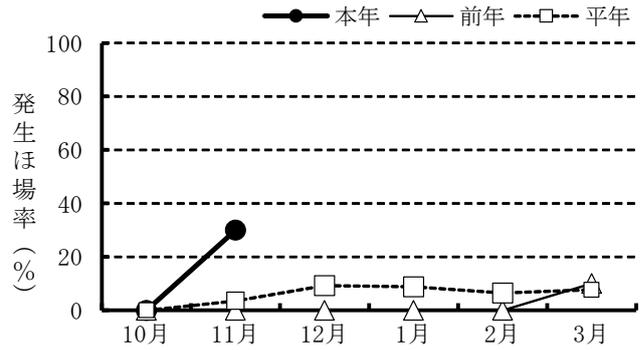


図2 黄化えそ病の発生ほ場率(キュウリ)

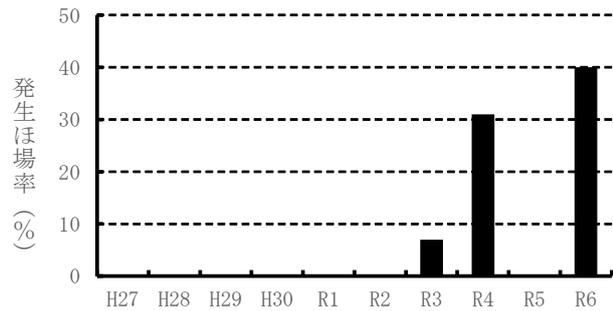


図3 退緑黄化病発生ほ場率の年次推移(キュウリ)(11月調査)

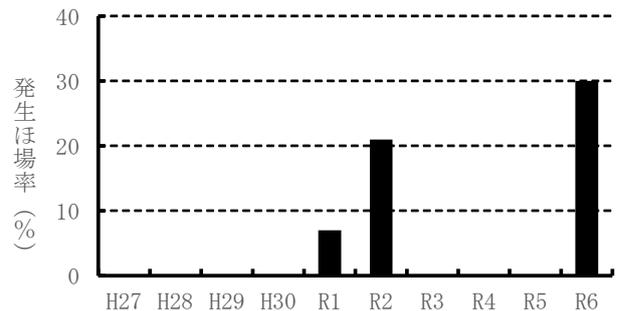


図4 黄化えそ病発生ほ場率の年次推移(キュウリ)(11月調査)

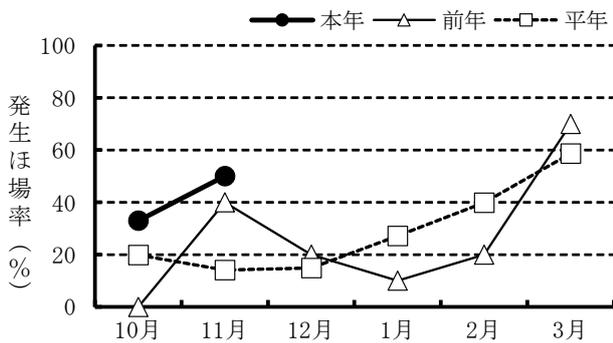


図5 コナジラミ類の発生ほ場率(キュウリ)

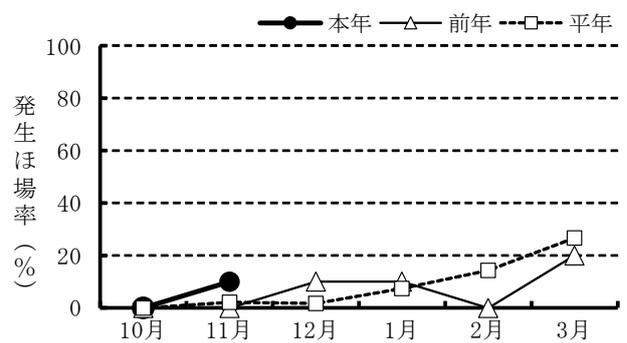


図6 アザミウマ類の発生ほ場率(キュウリ)

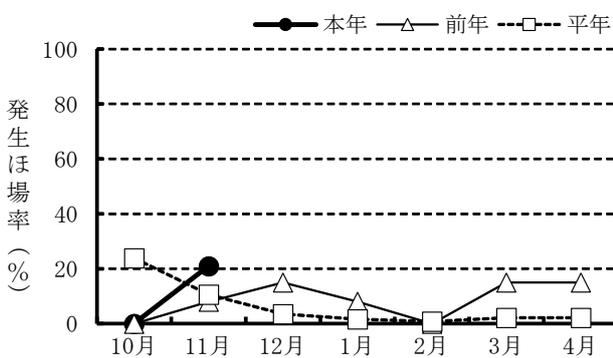


図7 黄化葉巻病の発生ほ場率(トマト)

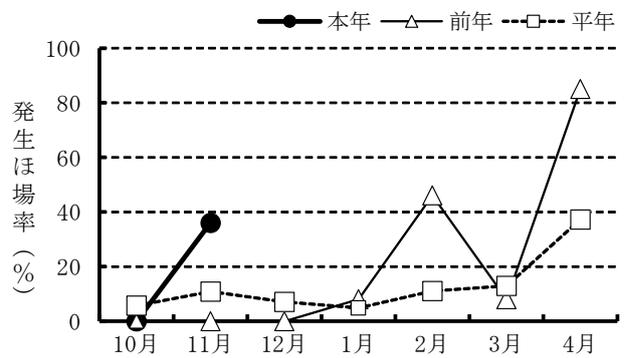


図8 コナジラミ類の発生ほ場率(トマト)